

感染症の登園基準一覧表

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。登園に際して以下の配慮をお願いいたします。

- ① 園内での感染症の集団発症や流行につながらないこと
- ② 子どもの健康（身体）状態が保育園での集団生活に適応できる状態に回復していること

【受診する際のお願い】

- ① 受診先に保育園に通っていることを伝え、園で流行中の感染症がある場合はそのことも伝えてください
- ② どのような状態になったら登園（集団生活）が可能か確認しましょう
- ③ 薬が処方となる場合は、在宅時間内（1日2回や朝・帰宅後・寝る前）での服薬に調整できるか確認しましょう
- ④ 受診後は園に、**診断名・欠席期間・体調不良の経過（いつから症状があるか）**をお知らせください

● 各感染症の登園のめやす

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあつては、3日を経過するまで）
新型コロナウイルス感染症	発症2日前から発症後7～10日間程度	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後24時間を経過するまで
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認められるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、または適正な抗菌薬による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認められるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認められるまで
感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服開始後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍 <small>かいよう</small> が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
伝染性化膿疹（とびひ）	浸潤な発しんがある場合	皮しんが乾燥しているか、浸潤部位が覆える程度のものであること（皮しん、痂皮が浸潤している間は接触による感染力が認められる）
伝染性軟属腫（水いぼ）		掻き壊した傷から、浸出液が出ている時は被覆すること
頭じらみ症	発症から駆除開始し数日間	駆除を開始していること

※ その他：原因不明の発熱、咳、嘔吐、下痢、発しんなどの症状があるときは担当医の指示に従う